

都道府県等への技術指導について

林木育種センターでは、都道府県等からの要請等に応じて、種苗の増殖や採種園等の造成改良に関する技術指導を行っています。本年度のこれまでに実施した技術指導について紹介します。

1. カラマツ採種園管理の技術指導について

吾妻森林管理署、群馬県林業試験場、林木育種センターの3機関共同で吾妻森林管理署管内のカラマツ田代第一採種園を活用して安定的な種子を確保する取組を行っており、6月上旬に翌年の着花を促進するための環状剥皮や施肥を実施しました。実施に当たって、その目的や実際の剥皮方法を実演して理解を深めてもらいました。同月下旬には今年の球果の着生を確認するために、双眼鏡を使って3方向から確認し、5段階での指数評価を実施しました。その後、8月上旬に着果が見られた個体の球果を実際に採取し、球果を切断して白い胚乳の数を数えて種子の充実を調査しました(写真1)。この調査では、これまで胚乳を肉眼で見えていたが、今回からスマートフォン等で撮影して、切断部を拡大した画面にすることにより、スピーディーかつより正確に確認できるようになりました。本年度は、例年より少し多めの着生が見られましたが、種子の確保ができる見込みのあった個体はわずかでした。一方、本採種園(群馬県)から浅間山を挟んだ浅間山国有林内(長野県)にある清方採種園とその周囲のカラマツでは沢山の球果が見受けられましたので、本採種園については来年度以降に期待したいと



写真1 種子の充実率の判定調査

思います。

2. スギミニチュア採種園の管理技術等について

6月に、岐阜県白鳥林木育種事業地において、岐阜県の担当者、現場管理者及び作業員を対象にスギミニチュア採種園の管理技術、ヒノキのミニチュア仕立ての剪定、アカマツ採種木の剪定について、講習を行いました。スギミニチュア採種園については、施業サイクル(整枝剪定による萌芽枝育成→着花促進処理→採種)や樹形誘導に関する講義を行い、その後、採種園において実技を実施しました。スギの整枝剪定については、1回目は着花促進前に採種木から種子採取など作業がしやすい高さ調整を、2回目は球果採取後に枝の長さや間引きなどによる骨格決めを、3回目以降は球果採取後に樹形維持と採種量を確保するための萌芽枝の育成を主目的として行うことを説明しました。今回は1回目と2回目で行う断幹や剪定の仕方を中心に実演しながら理解を深めてもらいました(写真2)。また、剪定やジベレリン処理後は採種木の樹勢が衰えるため、施肥による樹勢回復も重要であることを併せて説明しました。



写真2 整枝剪定の技術指導の様子

3. おわりに

今後も、各都県や認定特定増殖事業者に対して、採種園からの安定的な種穂供給に向けて支援していきたいと考えていますので、ご要望があれば各都県の担当者を通じてご連絡をお願いいたします。

(指導普及・海外協力部 指導課 藤原 優理)